

2015/5/1

しろひげ@Kurobane です。

5月になりました。

草木が日に日に緑を濃くして花をつけ、天地に命が満ち溢れる、楽しく美しい時がやってきました。

12か月が色を取り合えば、緑はすんなり5月のものでしょう。

花と緑が美しいこの季節、毎朝の散歩が楽しみです。

若い頃には植物には目が向かなかつたのに、散歩の折々に、道沿いの個人の庭に花と緑を見つけては、足をとめています。

花や木を本当に美しいと思うようになったのは、果たしていつの頃からでしょうか。

メイ・サートン（植物好きだったアメリカの詩人・作家）がいうように、一般的に植物のよさがわかるのは、大人になって心の余裕が出来てからでしょう。

しかし、いくつになっても、5月ほど自分の言葉の貧しさを痛感する時はありません。

緑にしても、薄緑から濃い緑、碧い緑まで、その色を言葉で描こうとすると、絶望感、無力感

すら覚えます。

「神様を見つけるのにいちばんいい場所、それが庭だ」 (バーナード・ショウ)

神様を表現するなどとは恐れ多いこととあきらめ、ひたすら自然が織りなす光と色の風景を今年も心に刻むことにします。

やがて始まるゴールデンウィークは、立夏と重なり季節を回します。

皆さんがお持ちの「春の絵具箱」から描き出された、黄金の日を伝えるお便りをお待ちしております。

黒羽根整形外科

黒羽根洋司